

作成日：平成 21 年 6 月 19 日

改定日：平成 23 年 3 月 30 日

製品安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

製品名： DIRECT TURQUOISE BLUE GL
会社名： 日本色素販売株式会社
住所： 東京都中央区日本橋堀留町 1 丁目 2 番 1 号
担当部門： 技術担当
電話番号： 03-3663-6971
FAX 番号： 03-3663-7049
緊急連絡先： 03-3663-6971（東京本社）
奨励用途及び使用上の制限： 繊維用染料

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性 / 引火性ガス	分類対象外
	可燃性 / 引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性 / 酸化性ガス	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	区分外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分外
	自己発熱性化学品	区分外
	水反応可燃性化学品	区分外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類できない
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分外
	急性毒性（経皮）	分類できない

	急性毒性（吸入・ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入・蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入・粉塵）	分類できない
	急性毒性（吸入・ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性 / 刺激性	区分外
	目に対する重篤な損傷 / 目刺激性	区分 2B
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分外
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器 / 全身毒性（単回暴露）	分類できない
	特定標的臓器 / 全身毒性（反復暴露）	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境性有害性	区分外
	水生環境慢性有害性	分類できない
絵表示またはシンボル	なし	
注意喚起語	警告	
危険有害性情報	目への刺激	
注意書き	<p>[安全対策]</p> <p>使用前に取扱説明書を入手すること。</p> <p>すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わない。</p> <p>この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしない。</p> <p>個人用保護具や換気装置を使用し、暴露をさけること。</p> <p>屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。</p> <p>防塵マスク、保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。</p> <p>取り扱った後は、よく手を洗うこと。</p> <p>環境への放出を避けること。</p>	

[救急処置]

吸入した場合：

空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

飲み込んだ場合：

気分が悪いときは医師に連絡する。口をすすぐこと。

目に入った場合：

水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。目の刺激が続く場合は、医師の診断 / 手当てを受けること。

皮膚または毛髪に付着した場合：

大量の水と石鹸で洗うこと。直ちに全ての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。皮膚刺激が生じた場合、医師の診断 / 手当てを受けること。

[保管]

施錠して保管すること。容器を密閉して換気の良い所で保管すること。

[廃棄]

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。又、内容物や容器を、国際、国、都道府県、市町村の規則に従って、廃棄すること。

3 . 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物
化学名	銅フタロシアニン系直接染料
成分及び含有量	染料 100%
化学特性（化学式または構造式）	営業上の機密事項につき非公開
官報公示整理番号（安衛法）	既存化学物質
官報公示整理番号（化審法）	既存化学物質
CAS No.	営業上の機密事項につき非公開
危険有害成分	該当しない

4 . 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移動し、きれいな水でよくうがいをする。必要であれば、医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	触れた部位を水で洗い流す。
目に入った場合	直ちに流水で15分以上洗眼し、医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	医師の手当てを受ける。

5 . 火災時の措置

消化剤	水噴霧、泡沫、粉末、炭酸ガス
消火を行う者の保護（保護具等）	呼吸用保護具を着用する。

6 . 漏出時の措置

人体に対する注意事項	作業の際は適切な保護具を着用し、製品が皮膚や目に付着しないようにする。
環境に対する注意事項	流出した製品が河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
除去方法	漏出源を遮断し、漏出を止める。回収作業は出来るだけ風上から行う。少量の場合は、土砂等で覆い、密閉できる空容器に回収した後、残りを雑巾でよく拭き取る。大量の場合は、漏出した染料を電気掃除機で吸引して回収する。
二次災害の防止策	回収した後に水で洗い流すが、この場合、濃厚な液が河川等に排出されないように注意する。

7 . 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	着衣、皮膚、粘膜に触れたり、眼に入らないように適切な保護具を着用する。
注意事項	粉塵対策の完備した施設または局所排気装置を使用する。基本的に屋外での取扱いは行わない。水分の吸湿、異物混入防止のために、使用後は速やかに容器に蓋をする。
安全取扱い注意事項	暴露防止のため、保護具を着用して作業を行う。

保管

適切な保管条件

容器は直射日光を避け、冷暗所に密閉して保管する。

安全な容器包装材料

規制されない「ダンボール箱、ファイバードラム等(内装：ポリエチレン袋)」の吸湿防止対策を施した容器

8．暴露防止及び保護措置

設備対策

取扱い場所の近くに洗身シャワー、手洗い、洗眼設備を設けることが望ましい

管理濃度

未設定

保護具

呼吸器の保護具

取扱いには防塵マスクを着用すること。

手の保護具

有機溶剤または化学薬品が浸透しない保護手袋を着用する。

目の保護具

取扱いには保護眼鏡を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

有機溶剤または化学薬品が浸透しにくい長袖作業衣、ゴム長靴、帽子を着用する。

9．物理的及び化学的性質

物理的状態

形状

粉体

色

青紫色

臭い

特になし

PH

データなし

物理的状態が変化する特定の温度 / 範囲

沸点

該当しない

引火点

なし

爆発特性

データなし

密度

約 0.8

溶解性

80g/L (水 80)

10．安定性及び反応性

安定性

一般的な貯蔵・取扱いにおいて安定である。

反応性

自己反応性なし

危険有害な分解生成物

加熱や燃焼等により CO、NOx、Sox 等の有害ガスを発生する恐れがある。

11. 有害性情報

局所効果（皮膚・目など）	皮膚刺激性：刺激性なし（うさぎ） 目刺激性：極軽度の刺激性あり（うさぎ）
皮膚感作性	感作性なし（モルモット）
急性毒性	ラット 経口 LD50 > 5,000mg/kg
変異原性	Ames テスト（スクリーニング 2 菌株） 陰性

12. 環境影響情報

分解性	化審法試験条件において、微生物により分解されなかった。（安全性の点検が完了した物質）
生体蓄積性	化審法試験条件において、魚体に対する濃縮性は低い（安全性の点検が完了した物質）
生体毒性	
魚毒性	LC50 > 1,000mg/L（48hr ヒメダカ）

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	適切な施設で焼却によって処理するか、都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託する。これを含む廃水は、その地区を規制する法律に従って処理をする。
汚染容器・包装	空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国内規制	特段の規制はない
国際規制	特段の規制はない
国連分類	国連勧告の定義上危険物に該当しない
輸送の特定の安全対策及び条件	直射日光を避ける。輸送前に容器の破損・腐食・漏れ等のないことを確かめる。転倒、落下、破損のないように積み込み、荷崩れの防止処置を確実に行う。

15. 適用法令

労働安全衛生法	既存化学物質 施行令第 18 条（名称等を表示すべき有害物）に該当しない。57 条の 2 第 1 項（通知対象物質）に該当する。 銅及びその化合物：政令第 379 号を 30～40%含有。
---------	------------------------------------------------------------------------------------------------------

化学物質審査規正法	既存化学物質 第 2 種監視化学物質等の規制を受けない
化学物質管理促進法	第 1 種指定化学物質（別表第 1）に該当しない 第 2 種指定化学物質（別表第 2）に該当しない
消防法	非危険物
毒物及び劇物取締法	該当しない

16. その他の情報

一般に粉塵が発生するような労働環境下では、一般粉塵の気中濃度許容値として、以下のような勧告値がありますので、ご参照下さい。

日本産業衛生学会（2000 年度版）	第 3 種粉塵の総粉塵として 8mg/m ³
ACGIH（1998 年度版）	他に分類されない粉塵として 10mg/m ³

- ・ 本製品は業務用（工業用）です。医療用その他特殊用途に使用される場合には、貴社にて事前に安全性を確認下さい。
- ・ 体内に埋植、注入したり、または体内に本製品の一部が残留する恐れのある用途には使用しないで下さい。
- ・ 記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等のデータや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。全ての化学製品には未知の有害性があり得るため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定下さるようお願い申し上げます。また、記載事項は通常の手配を対象にしたものですので、特別な取扱いをする場合には新たに用途、用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。

記載内容の問合せ先

日本色素販売株式会社 技術担当
 電話番号： 03-3663-6971
 FAX 番号： 03-3663-7049